

町の農業を守るため、立ち上がった建設会社 ～グループ会社等と連携したアグリビジネスを展開～

農業生産法人もがみグリーンファーム 株式会社
代表取締役 大場 利秋（最上町）

1 受賞者の概要

最上町の建設会社「株式会社大場組」のアグリ事業部が独立し、平成20年に当町初の農業生産法人として設立。地域の農地の担い手として、経営耕地約80ha、作業受託面積延べ約351haの大規模経営を展開しており、独自の販売先を確保するなど、異業種からの農業進出における先駆者として地域農業を牽引している。

2 特色ある活動

(1) 町の水田農業の重要な担い手

水稲ではグループ会社から育苗土などの資材提供を受け、「ワーコム農法」による環境保全型農業を実践している。作業受託はそばの割合が大きく、播種と刈取で延べ約220haの作業を担っており、町の水田農業を支えている。

(2) グループ内で連携し「アグリビジネス」を実践

生産された農産物は県内外の商社、実需者に販売しているほか、大場組のグループ内で連携して観光・福祉事業等において利用され、安定的で付加価値の高い販売に当たっている。

(3) 最上町バイオマス産業都市構想の一翼を担う

町の「農業系バイオマスの循環利用プロジェクト」に参画し、水稲もみ殻の再利用として、固形燃料「モミガライト」を生産・販売している。

(4) 耕作放棄地の再生と発生防止

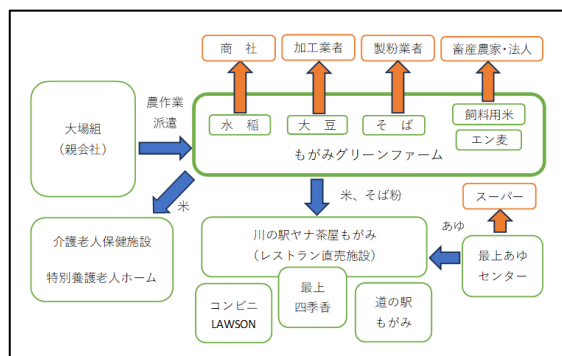
最上地域で初めて耕作放棄地再生事業を活用し12haの畑を再生したほか、作付けを続けられなくなった畑の作業受託を積極的に引き受けて耕作放棄地の発生を防いでいる。

(5) 地域雇用の確保

農繁期には大場組の社員の労働力を有効に活用することで、建設部門の雇用確保につながっている。水田を預けた地主には有償で水管理を担ってもらい、地主にとって収入と「生き甲斐づくり」にもなっている。

3 今後の発展方向

今後も農地が集まってくると考えられることから、更なる規模拡大を可能とする体制を作り、農業情勢の変化にも柔軟に対応できるよう、更なる生産コストの削減と販路拡大に取組み、次世代の担い手育成を行っていく。また、増設予定の焼却炉の排熱を利用した、施設園芸部門の再開を実現していく。



農産物の販路及びグループ内の連携



もがみグリーンファームの皆さん